

淫虐の檻に縛られて



早瀬 響子

illustration

みささぎ 楓李

淫虐の檻に縛られて

《立読み版》

早瀬 響子

イラスト みささぎ 楓李

「あ、くうっ……」

一糸まとわぬ姿にされ、男の膝に座らされた姿勢で、悠里は力無く身悶え、唇からこぼれそうになる声を懸命に嚙んでこらえた。だが背後からは、容赦なくその男——クラウスが責め立ててくる。

悠里のほっそりと華奢な身体は、既にクラウスの雄根に背後から深々と貫かれていた。だがクラウスはさらにその腰を、力強く何度も打ち付けてきて、雄根がさらに奥へと打ち込まれる。その度に体内で粘液質な音が淫らに響く。

悠里は足を大きく開かされたあられもない姿勢で、彼の動きのままにがくがくと揺さぶられ、壊れた人形のようなだった。両手首と足首を、それぞれ右側と左側で、引き裂かれたシャツできつく緊縛され、Mの字に開かされて閉じることが出来ないのだ。その艶やかな漆黒の髪がさらさらと頬に触れ、同じ色の大きな瞳が見開かれ、それから固く閉ざされる。その白い肌は上気し、荒れ果てた大広間の中で際立って見えた。

「あうっ、や……」

体内を容赦なく穿たれ、与えられる衝撃に悠里は思わず悲鳴を上げた。まだ十八歳の悠里は、それまで男同士はおろか、普通の性交もしたことがなく、自慰すらもほとんど知らなかった。だからこんな行為は初めての経験で、まるで太い杭に串刺しにされた生け贄いねのようだ。思わず腰を浮かそうとし、無意識のうちに彼から逃れようとした。

「ひ、イツ……！」

だがその瞬間、クラウドの片腕が一層強くその白い肌を抑え、締めつけるようにして強く自分の膝に引き下ろした。もたれさせられた背中一杯に、彼の身につけた軍服の感触が伝わってくる。そして同時に、埃ほこりと火薬、血の匂いも。悠里はそれらに身震いした。

「——ふん」

こちらを覗き込むクラウドの端正な面差しが、背後で歪ゆがんだ笑みを浮かべる。

悠里の身体は深く沈み込まされ、最奥まで激しく抉えぐられる。悠里はそのほっそりとした背をくねらせ、

限界まで身をしならせた。与えられた衝撃の激しさを示すかのように、裸足の、両足の指までも反りかえる。

「何を嫌がる振りをしている？ お前の身体の方は、随分と正直なようだが」

震える悠里の耳元にそう囁くクラウスの声には、明らかな嘲りの響きがあった。

「この国の民の命乞いをしたのも、どうせ口実だろうが。淫売め！」

罵りの言葉に、思わず身を竦める。そんなことはないと思いつつも、悠里は劣情を感じている自分を確かに思い知らされていた。

たった今、悠里の国は、隣国の王であるクラウスによって全国土を征服されたのだった。

ここ二、三年の間に極めて有能な、勇猛果敢な若き国王として近隣にその名を轟かせている男である。悠里より七歳年上の彼は、その噂にたがわず一九〇センチ以上の長身に極めて精悍な、見事な体つきだった。当然、悠里よりも遙かに大柄である。その燃え立つような短めの赤毛と、鮮やかな緑の瞳、地は白いが日焼けした肌は、国王というよりはまるでヴァイキングの戦士のようなのだ。

「もう、ここはこんなに尖っている。それに、こっちも……」

何という淫らな格好だろうか。クラウドの膝に乗せられ、全裸で髪は乱れ、胸の突起は、鏡で見てもはっきりとわかるほどに固く尖っていた。足首と手首は緊縛され、足はMの字に限界まで開かされている。そしてその中心の牡茎は、細いが強靱な革紐ひもで無惨に緊縛されていた。刺激を受けて震えながら屹立りつしている牡茎に、革紐は根本から先まで交差しながら容赦なく食い込み、締め上げているのだ。そして牡茎の先端からは止めどなく、透明な液体があふれ出ている。この行為に怯えおび、泣いているかのようだ。

——だがそれは彼に抱かれ、虜さらられて、感じている証だった。

「やっ、……！」

耐えきれず顔を背けようとするのをクラウドは抑えつけて許さず、より高く足を上げさせ、腰を動かして雄根を打ち込まれている部分をはっきり見させる。根本まで深く彼の雄根をくわえ込んだ、浅ましい姿をさらけ出された。

「それに、お前のここはこんなに美味うまそうに俺を呑み込んでいる。——おや、こっちの先端からはまた溢あふれてきたぞ……？　こんなにされて、かえって感じているようだな」

悠里は震えた。行為の前に、クラウドは悠里の身体を感じやすい部分に、たつぷりと軟膏状こうじょうの催淫剤を塗り込んでいたのだ。その為ためもあるとはいえ、全身が恐ろしい程に過敏になっている。

挿入される衝撃よりも、彼にその行為で劣情を感じさせられている、という事実があまりにも辛くて、悠里はそれから無意識に逃れようとしていたのだった。

※続きは製品版でお楽しみ下さい。

淫虐の檻に縛られて

《立読み版》

発行日 2011年12月23日

著者名 早瀬 響子

イラスト みささぎ 楓李

発行所 【MILK-CROWN】

株式会社水晶院

<http://www.milk-crown.net/>

(C) Kyoko Hayase 2011

※本著作物の一部あるいは全部を無断で複写複製することは、法律で認められた場合を除き、著作権の侵害となります。